

人と自然の交渉史に関する環境民俗学的研究

研究内容

環境民俗学は、環境(とくに自然環境)と人との関わりの諸相を生業・技術・民俗知などを手がかりとして研究する学問分野である。それは「日本人は自然を相手にどう生きてきたのか」という問いから生まれ、「私たちはこれから自然とどう付き合っていくのか」という課題につながるものである。筆者は、東北地方とりわけ山形・福島・秋田の農山漁村のフィールドワークを重ね、人と自然の交渉史について研究を進めている。

また、ジオパークに関する実践的研究も進めている。ジオパークは、保護保全・教育・防災・ツーリズムなどを通じて、人と地球のつながりの大切さを学び、持続可能な社会に貢献するユネスコの正式事業である。



鳥海山と仁賀保高原(秋田県)

地域・産学連携の可能性

東北地方の農山漁村は、少子高齢化、後継者不足、地域経済の疲弊、環境の悪化などさまざまな課題に直面している。その課題解決のひとつの方法として「レジデント型研究」の有効性を実感している。レジデント型研究とは「研究者・生活者・当事者といった複数の顔を持ちながら、自ら定住する地域の課題解決に向けた領域融合的な研究活動」のことをいう。文理を超えた学際的な視点に基づいて研究を深め、持続可能な社会に必要な「あたらしい価値」と「あたらしいつながり」をつくりながら地域をマネジメントしていくことが必要になってくるだろう。



飛島(山形県)の磯見漁(山形県)

このテーマに関連するプロジェクト研究所

生業景デザイン研究所

このテーマに関連するSDGs開発目標



小国町の野焼き(山形県)



ライフデザイン学部 生活デザイン学科 環境民俗学、地域研究、生業論、ジオパーク

岸本 誠司 KISHIMOTO Seiji

教授、修士(文化学)

URL <https://chokaitobishima.com/> / <https://npo-po.net/>

執筆論文

「河口・離島・流れ山：秋田・山形県境の地形と北前船寄港地」,
『地図中心』20-22, 日本地図センター, 2020-04,



鳥海山・飛島ジオパーク



パートナーシップオフィス



Keyword

生業、技術、保護・保全、防災、島嶼、農山漁村、環境民俗学、ジオパーク、レジデント型研究